

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1.腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり(2件ともO157)、今年の累計は15件となっています。盆休み明けの第34週(8月20日~26日)以降報告が続いており、9月は6件の報告がありました。

2.感染性胃腸炎

定点当たり4.25人とやや増加しています。安芸区では12.5人となっています。

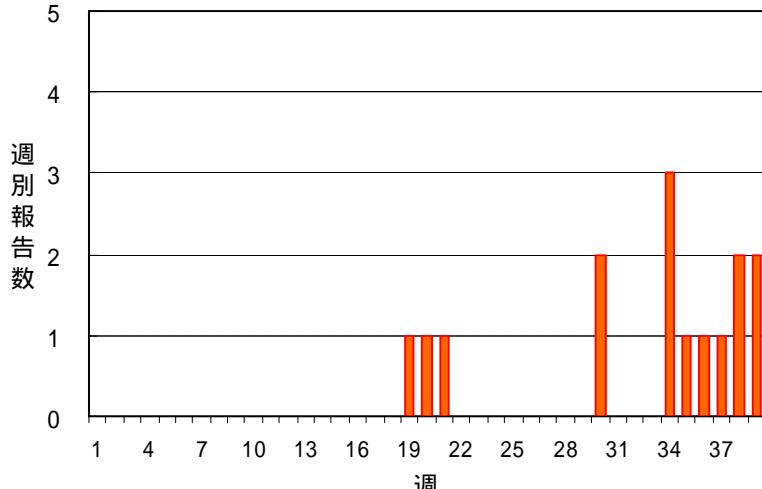
3.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり1.04人とやや増加しています。佐伯区では4.3人と特に多くなっています。

4.レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は7件となっています。例年と比べて多くなっています。

2007年の腸管出血性大腸菌感染症報告状況



5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当たり	平過去5年間	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平過去5年間	発生記号
インフルエンザ (注2)	-	-	-		麻しん(注3)	-	-	0.02	
咽頭結膜熱	10	0.42	0.08		流行性耳下腺炎	2	0.08	0.85	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	1.04	0.83	↑↑	RSウイルス 感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	102	4.25	3.83	↑↑	急性出血性 結膜炎	-	-	-	
水痘	9	0.38	0.60		流行性角結膜炎	7	0.88	1.48	
手足口病	5	0.21	0.30		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	5	0.21	0.16		無菌性髄膜炎	4	0.57	0.31	
突発性発しん	16	0.67	0.74		マイコプラズマ 肺炎	2	0.29	0.43	
百日咳	-	-	0.04		クラジニア肺炎 (注4)	-	-	-	
風しん	-	-	-		成人麻しん	-	-	-	
ヘルパンギーナ	13	0.54	0.25						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね 1.2以上の増減
増減	↑↑	↓↓	前週と比較しておおむね 1.1.5~2の増減
微増減	↑↑	↓↓	前週と比較しておおむね 1.1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 (小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は3年間)の同時期平均(定点当たり)

(注2)鳥インフルエンザを除く

(注3)成人麻しんを除く

(注4)オウム病を除く

1類~5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2 結核		5	127	男性(10歳代)・1人、男性(30歳代)・1人、 男性(40歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、 男性(60歳代)・1人
3 腸管出血性大腸菌感染症		2	15	男性(10歳未満)・O157、女性(10歳未満)・O157
4 レジオネラ症		1	7	女性(70歳代)

5類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

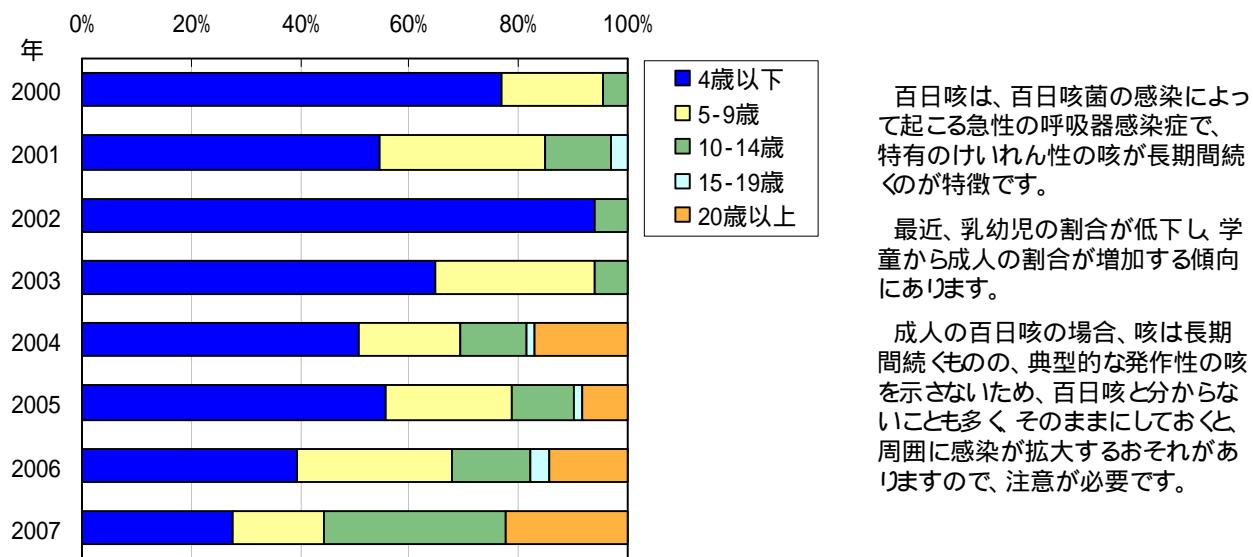
		インフルエンザ	A群溶性咽頭炎	球菌性咽頭炎	溶性咽頭炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	RSV感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ	クラミジア肺炎	成人麻しん
(注1)インフルエンザ	(注2)ヘルパンギーナ	(注3)麻しん	(注4)RSV感染症	(注5)急性出血性結膜炎	(注6)流行性角結膜炎	(注7)細菌性結膜炎	(注8)無菌性結膜炎	(注9)マイコプラズマ	(注10)クラミジア肺炎	(注11)成人麻しん												
報告数	広島市	第35週	-	10	16	103	15	13	3	24	2	-	12	-	3	-	-	8	-	-	1	-
		第36週	-	4	22	90	11	5	4	26	2	2	17	-	5	-	-	7	-	-	1	-
		第37週	-	13	18	88	17	6	4	22	2	-	15	-	3	-	-	6	-	1	2	-
		第38週	-	9	20	90	8	7	5	18	3	-	14	1	4	1	-	1	1	-	-	-
		第39週	-	10	25	102	9	5	5	16	-	-	13	-	2	-	-	7	-	4	2	-
定点当たり	広島市	第35週	-	0.42	0.67	4.29	0.63	0.54	0.13	1.00	0.08	-	0.50	-	0.13	-	-	1.00	-	-	0.14	-
		第36週	-	0.17	0.92	3.75	0.46	0.21	0.17	1.08	0.08	0.08	0.71	-	0.21	-	-	0.88	-	-	0.14	-
		第37週	-	0.54	0.75	3.67	0.71	0.25	0.17	0.92	0.08	-	0.63	-	0.13	-	-	0.75	-	0.14	0.29	-
		第38週	-	0.38	0.83	3.75	0.33	0.29	0.21	0.75	0.13	-	0.58	0.04	0.17	0.04	-	0.13	0.14	-	-	-
		第39週	-	0.42	1.04	4.25	0.38	0.21	0.21	0.67	-	-	0.54	-	0.08	-	-	0.88	-	0.57	0.29	-
全国		第37週	0.10	0.28	0.84	3.35	0.42	0.92	0.22	0.83	0.03	0.01	1.33	0.01	0.32	0.04	0.69	0.02	0.07	0.27	0.01	0.01
		第38週	0.08	0.23	0.77	2.94	0.42	0.77	0.18	0.72	0.03	-	0.98	0.01	0.26	0.02	0.70	0.01	0.03	0.22	0.02	0.02

(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	8	女	2007/07/20	咽頭拭い液	ライノウイルス
咽頭結膜熱	1	男	2007/07/23	咽頭拭い液	ライノウイルス
咽頭結膜熱	5	男	2007/08/24	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
無菌性結膜炎	5	男	2007/08/21	糞便	コクサッキーウィルスB5型
無菌性結膜炎	0	男	不明	結膜液	コクサッキーウィルスB5型
急性肺炎	3	男	2007/06/25	咽頭拭い液	ライノウイルス
脳炎	0	男	2007/07/05	咽頭拭い液	ライノウイルス

参考】広島市における百日咳の年別・年齢階層別割合 (2000年～2007年第39週)



百日咳は、百日咳菌の感染によって起こる急性の呼吸器感染症で、特有のけいれん性の咳が長期間続くのが特徴です。

最近、乳幼児の割合が低下し、学童から成人の割合が増加する傾向にあります。

成人の百日咳の場合、咳は長期間続くなり、典型的な発作性の咳を示さないため、百日咳と分からなくなることが多い。そのままにしておくと周囲に感染が拡大するおそれがありますので、注意が必要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じことがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp